

■子育てアドバイザー派遣事業

子育ての悩みや心配事、ぜひ相談してください

『子育てアドバイザー』は、関城保健センターが主体となる育児支援家庭訪問事業のなかで、育児におけるストレスを軽減させるための訪問援助や、育児についてのアドバイスをなどを行っています。アドバイザーになるのは、助産師などの専門の資格を持つ人や子育てを経験したことのある人など。現在、筑西市の関城地域では、34人の『子育てアドバイザー』が声かけ訪問などの活動を行っています。



なぜ今、子育て支援なのか

都市化による核家族の増加（日本の全世帯の約6割が核家族）や、地域社会の崩壊、ライフスタイルの多様化、住居の個室化などが進む現代。私たちの生活は、ますます『個別化』が進んでいます。

こうした生活は、個人のプライバシーが守られ快適で便利な反面、子育て中のお母さんなどにとっては、1人で子育ての責任を負わされるのに等しく、その負担感や拘束感の増大につながっています。自身が少子化時代に育っている母親は、子育てをイメージの世界でしか知らないことが多く、『自分の子どもはかわいい』『子どもは生きがいである』と思っているにもかかわらず、育児方法についての不安や戸惑い、仕事と子育ての間での葛藤に苦しんでいるのです。

それでも、身近に相談相手がいたり、

手助けをしてくれる人がいる場合は、子どもに対する愛着や自信が順調に育っていつてくれます。しかし、地域の変容などにより孤立化しているのが現状。そういうときに支援するのが、『子育てアドバイザー』なのです。

各世帯を『声掛け訪問』

子育てアドバイザーの活動は、大きく『声かけ訪問』と『事業への協力』の2つに分けることができます。

まず、『声かけ訪問』では、関城地域の赤ちゃんがいる世帯を、子育てアドバイザーが直接訪問します。第1回目は、赤ちゃんが生まれて1か月を過ぎた頃に、医療機関や保健所などの所在地や連絡先などを記した『お誕生おめでとう』のカードと『ブックスタートのお知らせ』を持って訪問。「育児などで心配事や悩みがあったら、ぜひ相談してください」と声をかけてきま



■このコーナーを担当したのは

はこもり
箱守 まり子さん（関館）

す。カードでは、担当のアドバイザーについても紹介していますので、お母さんも安心して話を聞いてくれます。

2回目は、『9・10か月健診のお知らせ』と歯ブラシを持つて訪問。「絵本は読んでいますか」「心配事は無いですか」などと声をかけてきます。

また3月には、次年度の母子保健事業が記載されている『すくすく子育てカレンダー』を、0歳児から就学前の乳幼児のいる関城地域の全世帯に配布して歩きます。ちなみに、昨年対象となった乳幼児は613人。アドバイザーたちは訪問にあたり、訪問日や時間帯などを工夫して、できるだけお母さんと赤ちゃんに直接あえるように努力しているそうです。

保健センター事業への協力

子育てアドバイザーのもうひとつの仕事は、『事業への協力』。これは、主に関城保健センターで行われる健診時に、兄弟姉妹連れのお母さんの手伝いや絵本の読み聞かせなどを行うものです。

関城地域では、3・4か月健診時に絵本のセットを配布し、お父さんやお母さんが自分たちの赤ちゃんに読み聞かせてあげるようにアドバイスしています。これが市立明野図書館などでも行っている『ブックスタート』。心の栄養である絵本を赤ちゃんの時から読み聞かせてあげることによって、人の声に耳を傾ける気持ちが自然と育ち、

『親と子』における『人と人』としての信頼関係が育まれます。

また、離乳食教室でお母さんたちが実習している間、赤ちゃんの世話をするのもアドバイザーの仕事のひとつ。私が取材で関城保健センターに伺った時には、離乳食教室が開催されていました。お母さんたちが実習のために調理室に行ってしまうとお母さんと離れた不安や環境の違いからでしょうが、泣き出す赤ちゃんの姿も。でもそこは子育てのプロである子育てアドバイザー、抱いたり、あやしたり、中には気持ちよさそうに寝てしまう子もいました。あどけない寝顔に、アドバイザーの顔も自然とほころびます。あるアドバイザーは、「こういう時に地域でお母さんたちを手助けするアドバイザーの喜びが実感できます」と話してくれました。子どもたちやアドバイザーの笑顔に接することができて、私も、幸せな気分を分けてもらった1日でした。

次世代を担うこの子たちの明るい未来のため、最も大切なのは、お父さん、お母さんが心身ともに健康であることです。もし1人で悩んでいるのなら、ぜひ、子育てアドバイザーに相談してみてください。きっと力になってくれるはずです。



◀関城保健センターで行われた離乳食教室で、子どもたちに絵本を読み聞かせる子育てアドバイザー。